



環境福祉学会

News Letter

ニュースレター August 2018

31

目次

第14回年次大会開催のお知らせ	1
平成30年度公開セミナー講演要旨	2・3
一般発表募集のご案内	4
組織及び役員一覧・事務局日より	4

環境福祉学会 事務局 株式会社環境新聞社事業部内
〒160-0004 東京都新宿区四谷3-1-3 第1富澤ビル
TEL. 03-3359-5349 / FAX. 03-3359-7250
<http://www.kankyofukushi.jp/>
E-mail: info@kankyofukushi.jp

第14回年次大会は、岐阜薬科大学で開催

環境と福祉の融合を目指して14年前に創設された環境福祉学会ですが、今年度の年次大会は、岐阜市の岐阜薬科大学で開催します。

岐阜県では、本格的な人口減少時代を見据え、長期的な視点から策定した「岐阜県長期構想」に基づき、「希望と誇りの持てるふるさと岐阜県」を目指して、各分野の政策を進められています。そのような中で、今年の年次大会のテーマは、「人口減少社会と環境福祉」です。

秋の気配が深まる「清流の国ぎふ」での開催ですので、ぜひ会員の皆様の多数のご参加と研究発表にお申込み頂きたくお願い申し上げます。

第14回年次大会実行委員会

大会委員長 稲垣隆司

第14回年次大会概要

大会テーマ：人口減少社会と環境福祉

開催日：2018年10月27日（土）

会場：岐阜薬科大学本部キャンパス（岐阜市大学西1-25-4）

大会実行委員長：稲垣隆司（岐阜薬科大学 学長）

プログラム：

10：00～12：00 一般研究発表（第1～第3分科会）

公開シンポジウム

13：00～13：15 開会挨拶・来賓祝辞

13：15～14：00 基調講演

「人口減少の環境福祉に与えるインパクトと対応」

炭谷 茂 当学会会長 / 社会福祉法人恩賜財団済生会理事長

14：15～16：45 パネルディスカッション

テーマ「人口減少社会という希望（仮）」

コーディネーター：

パネリスト：調整中

詳細が決まり次第、ホームページに掲載します。

16：50 閉会挨拶

17：00～18：30 懇親会

参加費：大会参加費 5,000円（学生3,000円）

懇親会参加費 4,000円（学生2,000円）



環境福祉学会平成30年度公開セミナーは、平成30年6月9日（土）に東京福祉大学池袋キャンパス（東京都豊島区）において、「環境関連事業における障がい者雇用」をテーマに開催されたが、その講演要旨を紹介する。

講演1：環境福祉産業の現状と発展の条件

環境と福祉の統合を促進する内外の大きな潮流は、国の動きをみると、平成16年の第3次環境基本計画により、環境・経済・社会の統合的向上を打ち出され、3つの部分を一緒に取り組んでいくことになりました。今年の4月17日に出ました、第5次環境基本計画ではさらに進んで、SDGs（国連の持続可能な開発目標）も活用し、環境・経済・社会の統合的向上が中心的テーマとなっています。民間の動きをみるとESG投資が拡大し、環境や福祉や企業統治に熱心でないと持続的な発展は望めない状況になっています。

環境福祉産業の現状と可能性ですが、1つ目にリサイクル等廃棄物産業があります。労働力の不足や3K職場のイメージがありますが、人手不足の状況にあり、障がい者等の雇用がすすめられています。業務内容が障がい者の特性に応じた仕事の切り分けが可能で、全国各地での事業展開ができます。また、多様な人の雇用によりイメージアップになります。2つ目に農業・酪農がありますが、労働力不足で生産性が低い状況にあります。障がい者等の従事は、多様な仕事があり、全国各地での就労が可能です。障がい者の自立にもつながります。環境の向上にも貢献します。3つ目に林業があり、日本の林業は衰退し、森林が荒廃しています。障がい者、刑務所出所者等の雇用により、緑の効果や環境を保全することが可能となり、森林管理業務は今後発展すると思います。4つ目は、分散型再生可能エネルギーで、住民等が小資本で取り組みやすく、利潤が地域に滞留し、地域密着で高齢者、障害者等の従事が容易であり、環境に貢献・災害時の対策にもなります。

最後に、発展するための条件ですが、環境福祉産業の成長力の認識が必要です。環境、福祉ともに成長分野なので、これからは労働力の確保が経営を左右します。その為、障がい者や高齢者等の潜在力を使うべきで、競争事業者が多くない今がチャンスだと思っています。



恩賜財団済生会理事長／当学会会長
炭谷 茂氏

講演2：農福連携とソーラーファームによる新しい農業のカタチ

ファームドゥの取り組みですが、農家さん、取引メーカーさんを含めまして約5千名の方々とつながりがあり、グループ全体が「農業を支援し、農家の所得向上に貢献する」という経営理念で事業を行っています。

ファームドゥグループというグループですが、ファームドゥは主に野菜と加工品の販売、そして農業資材の販売を行っている会社です。ファームランドは、東日本大震災がきっかけで再生可能エネルギー事業に取り組むことになり、群馬県、首都圏を中心に約120か所の太陽光発電所を運営して、小売りに続く大きな事業となっています。ファームクラブですが、農福連携の舞台ともなっている農業生産法人で、農業生産と農業の人材育成を行っている部署です。このような3者の経験を活かし、弊社では現在、海外事業も進めており、モンゴルで同じような農業生産、再生可能エネルギーの太陽光発電等を行っています。

こうした4つの部門を組み合わせまして、「若者に夢のある新しい農業のカタチ」ということで、群馬県高崎市の中里という場所で、ソーラーファームを中心とした約11ヘクタールに「夢の農業王国」という、1つのまちあるいは地域をつくるようなイメージで農業を行っており、農家さんの所得向上、そして社会貢献、地域環境保全を実現して行きたいと考えています。

農業生産の問題点は、農業人口の高齢化、後継者の不足、耕作放棄地の増加挙げられており、その対策として、障がい者の方の働く場所を整え、継続して活動していける環境づくりを行いたいと考えています。実際には、2015年から眼鏡のジンズノーマと一緒にっており、農業と福祉の融合を行うことで、障がい者の方をジンズノーマが雇用契約し、私たちと連携することで農作業を委託する短期間、低投資で農福連携が実現しています。

最後は20年後の目標ですが、このソーラーファームという事業について、国内1,000カ所、海外10カ国30カ所普及展開を目指しています。これに伴って、人材がかなり必要となりますが、そこは障がい者の皆様にももっともっと参入していただいて、全国でこのようなソーラーファームに農福連携を組み合わせた形が広がっていけばいいなと考えています。



ファームドゥホールディングス株式会社
加藤野の子氏

講演3：若葉高等学園容器リサイクル事業

本校は開校が平成6年4月で、現在、群馬県には幼稚園から大学、専門専修学校まで含めると約201校あり、そのうちの特別支援学校は本校のみで、8年間の教育実績の成果を上げた結果、群馬県知事から認可をいただきました。

特色ですが、本校は義務教育を終えた子どもたちが進学する学校で、高等部の単独校といわれ、全国的にも高等特別支援学校という学校があり、いままでは養護学校といわれていましたが、平成19年以降は名称が変わり、特別支援教育という形に変わりました。

本校は、職業教育を重点として3つのコースがあり、農園芸は季節の花を1万3,000～1万5,000鉢つくって出荷しています。染織では、地場の機織りをしながら、実際に絞りを入れてそれを製品化します。食品製造コースというのは、焼き菓子として15アイテムのクッキーをつくるほか、ケーキなどをつくって地域の行事や店舗のほうに出荷をしており、経済的活動を伴った学校教育を行っています。

容器・リサイクル事業ですが、ヨコタ東北さんとの出会いが2011年で、新庄工場に私どものほうから訪ね、その中で、容器リサイクルのお話を頂戴しました。

若葉高等学園の会議室を改良して、生徒たちが取り組める作業所として15畳弱の場所をつくりました。クリーンルームということで、いろいろと規定がありますが、それをきちんとクリアして、ヨコタ東北さんの井ものの容器にシールを貼っています。

学校から子どもたち、このほかにも一緒にいる子どもたちに関しては、実際にはお給料を払っています。ですから、保護者のほうからお給料はもらわないで、学校の中で働く場所を提供し、子どもたちが自分のお小遣いで学校で学んでいるということです。当初の目標は、1日3、4時間の作業でシール貼りが1,500～1,600枚ぐらいでしたが、この生徒は3,500枚貼れるようになりました。私たちはどんなに頑張っても1時間で400ぐらいしかできませんでした。

共生社会の実現、障がいがある人もない人も一緒に地域で生活をしていき、私たちも歳をとると自分自身も障がい者になることは十分に考えられます。年齢とともに「障がい」というものを身近に感じてきました。学校の子どもたちと真剣に共生社会の実現に向けて取り組んでいきたいと思っています。



学校法人大出学園支援学校若葉高等学園
学校長 大出浩司氏

講演4：環境・福祉・教育連携による障がい者雇用 ～持続可能な社会を目指して～

弊社は食品容器メーカーであり、工場はリサイクル容器ができるところを見学できるようになっています。小さいころから環境大切にする心を養うため、地元の新庄市の小学生が授業の一環として見学をするのをはじめ、たくさんのお客様に見学をしていただいています。



株式会社ヨコタ東北
営業企画
横田陽子氏

「はがせるトレー」と言われている「P&P リ・リパック」ですが、赤いシールが付いており、こちらを食べた後にはがしていただくと、ゴミになるのは表面のフィルムだけで、本体はリサイクルになるという容器です。はがしたフィルムだけがゴミになるので、ゴミの量を大幅に削減することができ、容器は回収、ペレット化し、また新たな容器にすることができるので資源になります。山形県の日本一の芋煮会では3万人の方が来場するのですが、このはがせるトレーを使用することによって、ゴミの量を10分の1以下に削減することができました。

先ほどの大出学園の子どもたちに貼ってもらっていたという井ぶりですが、大学の学食で使う容器になります。2001年に2つの大学から始まり、今は148大学の学食や学園祭で、この容器を使用いただき、大幅なゴミの削減に貢献しています。

三菱地所エコ弁プロジェクトでもリサイクルの広がりを見せています。丸の内エリアで、1年間で販売されるお弁当の数は260万個におよび、その大半が廃棄物として焼却され、大量のCO2を生み出していました。そこで、東京駅周辺のビルに協力をいただき、はがしてシールが付いているトレイを導入していただきました。このプロジェクトは、大学のときにこのはがせるトレーを使用していた三菱地所の方が、どうしたらゴミを減らせるのだろうかということで、弊社の容器を提案していただき、採用となりました。この取組みは千代田区から三菱地所さんが表彰を受けています。

日本では障がい者の人口が10年前には2%でしたが、現在は6～7%、10年後にはもっと増えるといわれており、国の補助のみでは生活がしていけない状況になっています。このはがせるトレーを使用することにより、誰でも自然にリサイクルに参加でき、環境保全に貢献し、障がい者の雇用促進につながる取り組みを広げるため、ぜひご協力頂けましたら幸いです。



環境福祉学会

環境福祉学会第14回年次大会一般研究発表募集のご案内

環境福祉学会第14回年次大会は、10月27日（土）に岐阜薬科大学本部キャンパス（岐阜市大学西）で開催します。発表を希望される方は、研究発表申込書に必要事項を記入の上、大会事務局にお送りください。大会実行委員会にて発表内容を確認し、発表者に「予行集原稿作成要領」をお送りします。

(1) 発表者の資格：発表者は本学会会員であること。ただし、今回は非会員による発表申込みも受け付けますが、発表前に入会手続きをされるようお願いいたします。

なお、会員と連名の場合は非会員も可です

(2) 発表形式：発表は口頭でパワーポイントを使用してください。（発表15分、質疑応答5分）

(3) 発表申込み締切り：9月14日（金）必着

(4) 予稿集原稿締切り：10月9日（火）必着

(5) 発表申込先：必要事項を記入の上、下記申込先に Fax 又は E-mail にてお申込み下さい。件名に、**環境福祉学会発表申込み**と書いて下さい。

申し込み先 「環境福祉学会第14回年次大会事務局」 酒井 宛

(1) Fax：03-3359-7250

(2) E-mail：sakait@kankyo-news.co.jp

環境福祉学会第14回年次大会実行委員会 委員長 稲垣 隆司

■ 環境福祉学会組織役員

会 長：	炭谷 茂	社会福祉法人恩賜財団済生会理事長 元環境事務次官
副会長：	伊藤達雄	名古屋産業大学名誉学長 鈴鹿医療科学大学客員教授
	潮谷義子	日本社会事業大学理事長 前熊本県知事
	藤田八暉	久留米大学名誉教授
顧 問：	植田和弘	京都大学名誉教授
理 事：	泉谷直木	アサヒグループホールディングス株式会社代表取締役会長
	稲垣隆司	岐阜薬科大学学長
	一方井誠治	武蔵野大学工学部環境システム学科教授
	栗原 久	元東京福祉大学教授
	田中正秀	東京福祉大学・大学院社会福祉学研究科 社会福祉学部経営福祉専攻教授
	寺田清美	東京成徳短期大学教授
	仁木 壯	旭川市 副理事長
	波田幸夫	環境新聞社代表取締役社長
	萩原元昭	群馬大学名誉教授
	藤田成吉	元東海大学教授
	松寿 庶	福祉新聞社代表取締役社長
	安川 緑	旭川大学保健福祉学部看護学科教授
監 事：	永井伸一	獨協医科大学名誉教授
	伊澤敏彦	元農林水産省東北農場試験場
事務局長：	小峰且也	環境新聞社専務取締役
事務局：	酒井 剛	環境新聞社企画営業本部長兼事業部長

事務局だより

今年の年次大会は14回を迎え、「人口減少社会と環境福祉」をテーマに開催致します。基調講演では、当学会・炭谷茂会長による「人口減少の環境福祉に与えるインパクトと対応」という演題で講演頂きます。

パネルディスカッションでは、3名のパネリストをお迎えし、議論いたします。

秋の気配が深まる「清流の国ぎふ」で開催される年次大会にぜひ、お誘いあわせのうえご参加下さるようお願いいたします。